

子どもたちに 核兵器も基地もない 平和な日本と世界を

平和・核兵器廃絶
メールニュース第3号
2011年3月4日（金）
全教・国民共同局

3・1ビキニデー集会　ビキニ環礁での水爆実験被害から57年 新署名「核兵器完全禁止アピール」を“地域ぐるみ”で

2011年の3・1ビキニデーが、2月28日に静岡市で日本原水協集会・分科会、3月1日に焼津市で墓参行進とビキニデー集会がおこなわれ、全国から1600人が参加しました。

57年前（1954年）の3月1日、マーシャル諸島ビキニ環礁でアメリカがおこなった水爆実験は、広島の実験の1000倍もの規模でした。これに被爆した第5福竜丸の乗組員であった久保山愛吉さんが「原水爆の被害者はわたしを最後にしてほしい」と言い残して亡くなり、核実験・核兵器禁止の署名は有権者の半数にまで広がり、翌年には第1回原水爆禁止世界大会が開催されました。今日の核兵器禁止・廃絶の運動の出発となったこの3・1ビキニデーの集会で、今年は、新たな国際署名「核兵器完全禁止アピール」を“地域ぐるみ”を合言葉に地域で職場で広げていくことを確認しました。



子どもたちからのメッセージや手紙も紹介されました

日本原水協からの基調報告では、奈良県生駒市の中学3年生から、ネット署名に次のメッセージが送られてきたことが報告されました。

「長崎に修学旅行に行きました。谷口稜嘩さんから直接お話を聞くことができました。私は戦争を直接経験したことはありません。しかし、多くの被爆者の方々から戦争や核兵器の恐ろしさ聞いてきました。世界中の人々が、そんな恐ろしい核兵器の廃絶を訴えている、自分にも何かできないか。そう思い、この署名に署名しようと思います。」

また、分科会では、昨年の原水爆禁止世界大会の青年分科会に参加した京都府の若いK先生から、広島の被爆者の証言集『木の葉のように焼かれて』を読んでもらった小学生が次の感想を書いて送ってくれたと、新日本婦人の会広島県本部の方から報告されました。

「これを読んで、私は原爆はとてもおそろしいものなんだなと思いました。私は核は絶対にあってはいけない物だと思います。原爆ではすべての人が悲しい思いをします。核がなく戦いのない世界にするために、話し合えばいいと思いました。」

3月1日、墓参行進、ビキニデー集会に参加して　木原秀子（全教中央執行委員）

アメリカの水爆実験が行われ、「第五福竜丸」をはじめ多くの漁船が被災した1954年3月1日から57年、母港の静岡県焼津市で、献花墓参行進と3・1ビキニ集会が開催されました。墓参行進では全国からの参加者が「青い空は」などを歌いながら、久保山愛吉さんの墓前まで行進し、献花しました。



その後の1600人が参加したビキニデー集会では、被爆した元乗組員やビキニ環礁自治体のアルソン・ケレン首長などから当時のようすが報告され、「今も苦しみは続いている。世界から核兵器をなくそう。被害補償を」と呼びかけました。また、他にも高知の船などたくさんの漁船が被爆していることや、「死の灰」が実験を行ったアメリカにもとどいていることが報告され、改めて「核兵器全面禁止アピール」新署名のとりくみを大きくすすめることが重要だと感じました。